

第21号 2025. 2. 27

かわかんネット

発行：一般社団法人 東北河川管理技術研究会事務局

〒980-0802 仙台市青葉区二日町 18-25 シャルム二日町 3F

E-mail: triver@ae.auone-net.jp Tel: 022-398-8831 Fax: 022-398-8832

分 科 会

I. 堤防分科会

日 時：令和6年12月12日（木）15:00～17:00

場 所：東北地方整備局 13F 水災害予報センター 出席者：東北地方整備局河川部 10名
東北河川管理技術研究会堤防分科会 9名

議 事

1. 意見交換

（1）令和6年7月25日からの前線に伴う降雨災害について（河川工事課）

（2）大久保遊水地越流堤の損傷調査（河川工事課）

2. 話題提供

・堤防弱体化による災害復旧事業（河川工事課）

3. その他

・堤防の維持管理のための農薬使用の試行について
（河川管理課）



議事概要

1. 意見交換 （1）令和6年7月25日からの前線に伴う降雨災害について（河川工事課）

整備局：子吉川・石沢川の破堤は、破堤氾濫しても家屋浸水が無く、氾濫域は水田であった。堤防の安全度が相対的に低いところだった。最上川中流においても堤防の安全度が相対的に低いところから越水・被災した。

研究会：子吉川・石沢川は過去にも破堤を経験している。

研究会：復旧工法検討にあたり、法尻の落堀平場部分の地盤復旧は考えなかったか。

整備局：用地の制約があり、法止めと法尻保護工を組み合わせた工法とした。

研究会：破堤地点上下流でも越水しているが、他は決壊していない理由は分かるか。

整備局：過去に災害復旧を実施していることと、内水によりウォータークッションのようになっていたと推測され、それらが破堤しなかった要因と推測している。

研究会：一度災害復旧したところは安全度が上がるため、手をかけていない箇所が次に被災すること

を繰り返している。過去に被災していない箇所は相対的に次に被災する可能性はあると考えられる。

整備局：今後の災害対策としては、子吉川・最上川では大規模な河道掘削を行う予定であり、今次洪水規模の出水において最上川は流下可能、子吉川は浸水被害の軽減が図られることとなる。

研究会：今回の出水では、CCTV で越水現象がうまく捉えられたが、夜間だと活用するのが難しい状況か。

整備局：危機管理型のカメラでは、夜間は上手く視認できない。

1. 意見交換 （2）大久保遊水地越流堤の損傷調査（河川工事課）

研究会：平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震後の空洞化の確認は、レーダを活用して縦断・横断的に確認していた。

整備局：当時のレーダ結果と今回の調査を比較すれば、レーダの精度検証ができる。

研究会：第2遊水地でエアモルタルが確認されなかったのは、越流堤のコンクリートが盛土の変位に追隨して一緒に沈下した可能性があり、空洞がないため注入を実施していないことが考えられる。

研究会：東日本大震災で復旧復興した河口部堤防や海岸堤防は3面張で施工されている。しかも軟弱地盤上に構築されており、大久保遊水地同様の事象が今後発生することが考えられる。今回の調査は、その補修のあり方の参考になる意義がある。

2. 話題提供 ・堤防弱体化による災害復旧事業（河川工事課）

整備局：今回災害申請した箇所は、次年度復旧工事を実施して堤防開削を行う。開削時に柔らかくなっている土質状況や、もしかしたら有害植物の侵入による弱体化の可能性もある。分科会には工事実施の際に分科会メンバーにも現地調査同行をお願いし、ご意見をいただきたい。それを堤防の質的な管理につなげていきたい。

研究会：平成16年頃から堤防の植生調査と貫入棒調査を全域にわたって実施している。通常の点検は重要であり、越水に伴い緩んだ箇所以外に、平常時から緩んでいる箇所もあるはず。調査の際は過去の成果も活用していただければよい。

3. その他 ・堤防の維持管理のための農薬使用の試行について（河川管理課）

整備局：堤防の維持管理のための農薬使用の試行ガイドライン（令和6年8月；国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課）の概要説明

研究会：東北管内で使用する予定はあるのか。

整備局：雄物川上流、子吉川、最上川下流、赤川、阿武隈川上流で今後試行する予定である。また、実施後はモニタリングしていくため、継続的に実施していくことになる。

整備局：農薬の使用にあたっては、試行であるため事前申請を本省に上げることになる。

Ⅱ．樋門・樋管分科会

日 時：令和 6 年 12 月 13 日（金） 15:00～17:00

会 場：東北地方整備局 2F 共用第六会議室

出席者：東北地方整備局 7 名、東北技術事務所 3 名
東北河川管理技術研究会 8 名



議 事：

1．情報提供

①河川部 河川管理課

- ・令和 6 年 7 月出水及び施設被害への対応など
- ・河川管理分野における D X について
- ・昨年度討議に関する報告

②東北技術事務所 品質調査課

- ・令和 5 年度 樋門・樋管点検結果について
- ・令和 6 年度 体験型河川堤防等実習施設の利用状況について

2．討議

樋門等の目的別巡視（専門）について

1．情報提供

- ・令和 6 年 7 月出水及び施設被害への対応など

○東日本大震災や過去の出水においても、電気盤の浸水による施設被害が発生するケースが多く見受けられる。今回説明のあった排水機場において、盤の嵩上げや架台の設置など再度災害防止に向けた工夫は実施するのか。

●浸水により施設被害のあった箇所については、耐水対策の実施や架台設置による電気盤の嵩上げなど対応を検討している。

- ・河川管理分野における D X について

○最近ドローンを活用した定点調査を実施したが、濇筋の状況や土砂の堆積状況、河床の状況など把握が可能であり、巡視におけるドローン活用も非常に有効であると思われる。

○巡視等への運用においては、高圧線が非常に支障となり、一連で飛行させることが困難な状況であると思慮される。離隔を保って高高度での飛行とする場合、機体やカメラの性能に関しても検討する必要がある。それ以外にも制約が多く今後整理が必要になると思われる。

●機体やカメラなどの仕様に関しては、全国的な業務で検討を行っており、各種制約なども考慮の上、標準的な仕様が示される予定である。

・昨年度討議に関する報告

- 昨年度討議（樋門の変状事例について）における報告について、「堤防等河川管理施設及び河道の点検・評価要領」を基に、止水板・目地の開きについて説明を行い了解頂いた。

・令和5年度 樋門・樋管点検結果について

- 令和5年度のモニタリングの状況を見ると、補修した箇所の変劣化が見受けられるので、損傷原因をしっかりと調査して把握しておくのが望ましい。また、東北技術事務所で調査指針等を整理するなど検討してはどうか。

2. 討議

樋門等の目的別巡視（専門）について

- 樋門等の目的別巡視（専門）における確認項目や方法等について、事務所によって違いが見受けられることから、統一した基準（ガイドライン等）を定めた方がよい。なお、これら対応を行うためには、巡視員との意見交換会などを実施するのも有効と思われる。
- 最近では施設の統廃合などによって河川管理施設も大型化しており、巡視・点検時の安全確保の観点から昇降タラップに背面ガードを設置するなど検討した方がよいと思われる。
- 目的別巡視（専門）に関しては、詳細な目視による確認が基本となっており、計測などを含む詳細な確認行為は、点検として実施すべき内容であると考えている。巡視と点検の違いを含めて実施内容等について事務所と調整をさせて頂く。
- 巡視員の安全確保に関する対応については検討させて頂くが、流下阻害 の恐れがある背面ガードなどについては難しいと思われる。

以上

Ⅲ. 河道分科会

日 時：令和 7 年 2 月 5 日（水）15:30-18:00

会 場：東北地方整備局 2 階 共用第 6 会議室

参加者：東北地方整備局 10 名、
東北河川管理技術研究会 12 名



議 事

1. 情報提供

○河川計画課

- ① R6.7 月洪水について
- ② 流域治水の推進について
(流域治水プロジェクト、特定都市河川等)

○河川環境課

- ・河川環境の定量的な目標設定の進め方の追加について

〈大規模河道掘削における配慮事項について〉

- 米代川で大規模な掘削をしていたと思うので参考になるのでは。
- 河道掘削に関する事例集にも記載があるが、設計思想・計画では斜め掘削だったが、現場では平水位掘削となっており、再堆積が確認されている。
- 河道掘削支援ツールは普及していないのか。
- 普及していない。研修ではカリキュラムに入れているが受講生は若手が多く、実際に使われている事務所は少ない。係長以上への周知が必要。
- 今後大規模掘削が主流になってくるため広めるべき。
- コンサルでも認知しているが、本ツールは単断面での評価に限られているものであるため、実際に設計で使用することが難しい。
- 現在、東北技術事務所で大規模掘削でも活用できるようツールをバージョンアップしているところである。
- 河道掘削について意識改革が必要。
- 堤防のように河道も管理していく必要があると考えている。
局でも河道掘削の形状等は協議を受けていないため、堤防法線のように見るような仕組みをつくり、事務所の意識を変えていくことが必要と考えている。
- 河川空間管理の一部として河道掘削後も適切に管理すべき。

●堤間幅が決まっているので、気候変動に対応するために河道掘削しようとする、再堆積を考慮した断面にすると流量を流しきれない。

○掘削だけでなく、遊水地等の貯めものも検討していく。

●掘削箇所の上下流の影響を確認した上で掘削を計画しているのか。

○プロジェクトは確認した上で計画している。

●掘削する箇所に地域の方々が大事にしてきたもの（桜、水辺の楽校等）がある場合、後々問題になることも考えられるので、理由等きちんと整理しておいた方が良い。

地域の方々とのコミュニケーションも大事。

●WG を復活させ、現地確認も含めて事務所と意見交換をしたい。

○各事務所で意見交換する場合、同席してもらうことは可能か。

●可能。

○川をよく知る方々1～2名に同席いただき、的確なアドバイスをいただきたい。

●連絡をもらえれば、こちらで人選して対応できる。

以上

5. その他連絡事項

「過年度の気象データ分析」 伊藤 芳治

・・・・資料配付

IV. ダム管理分科会

日 時：令和6年11月25日（月）

会 場：東北地方整備局 13階 水災害予報センター

参加者：東北地方整備局 10名

東北河川管理技術研究会 15名



令和6年度 東北河川管理技術研究会 ダム管理分科会

日時：令和6年11月25日（月）

14:30～17:00

場所：13F 水災害予報センター

次 第

I. 開会

II. 挨拶

東北河川管理技術研究会	ダム管理分科会	会長	谷田 広樹
東北地方整備局 河川部	河川保全管理官		竹内 久一

III. 議事

1. 令和5年度 ダム管理分科会の議事メモについて（確認）

2. 情報提供

① 最近のダム管理の話題について（東北地方整備局 河川部）

② ダム管理分科会の活動状況

- ・「玉川ダム総合点検結果」現地意見交換会（令和5年11月29日開催）

自由討論

① 情報提供「最近のダム管理の話題」に関して質疑応答、意見交換

意見交換の視点

➤ ダムの利水安全度について

最近は、洪水と渇水と極端な現象が発生しており緊急性安全性の面から洪水に対してが優先されているが、渇水を含めた利水の安全度についても慎重に対処しなければなら

ない。
かんがい用水、上水などの安定供給を今後どの様に捉えていくか、総合治水利水の取

➤ ダム管理の合理化について

職員の減、また合理化からCIMやDX化の話も加わり現実を直視した上でどの様に、対

処して行くべきか、具体的なことから考えて行くべきであり、現在どの様に、すべきか、
しようとしているのか

➤ 良好なコミュニケーションの構築に向けて

小人数組織のダム管理所において、職員間、職員と委託業者とのコミュニケーションは
業務推進上、最重要。メールに依存せず、面談等を優先すべきではないか

4. 講演「後輩に伝えたいこと（平常時とは異なる渇水時、洪水時に経験したことから）」

「江合川洪水を振り返って」櫻井 隆広氏（元 鳴子ダム管理所長）

IV. その他

V. 閉会



外部講師の派遣

東北地方整備局の河川管理研修、ダム管理研修にそれぞれ2名、二日にわたり、当研究会員が外部講師として活動されました。



河川管理研修 現地研修状況



ダム管理研修 講義状況

講習会

令和6年度河川管理・ダム管理・流量観測講習会を開催しました。

河川管理・流量観測講習会については、(一社)全国土木施工管理技士連合会の継続学習制度(CPDS)の方は3unit、(一財)河川技術者教育振興機構の継続学習制度(CPD)に加入されている方には12単位が付与されます。

I. 河川管理講習会

1. 日 時 : 令和6年10月16日(水) 13時~16時 仙台会場
令和6年10月31日(木) 13時~16時 盛岡会場
2. 場 所 : 宮城県建設産業会館
いわて県民情報交流センター(アイーナ盛岡)
3. 受講者 : 仙台 38名 盛岡 35名 計73名
4. 講習内容
 - 1) 講話 「河川に関する最近の話題」
 - 2) 講習 (1) 堤防の点検について
(2) 東日本台風における現地対応
(3) 質疑応答



Ⅱ．流量観測講習会

1. 日 時：令和6年11月12日（火）13時～16時
2. 場 所：宮城県建設産業会館
3. 受講者：43名
4. 講習内容
 - 1) 講 話 「河川に関する最近の話題」
 - 2) 講 習 （1）流量観測の留意点について
（2）流量観測技術の高度化について
（3）質疑応答



Ⅲ．ダム管理講習会

1. 日 時：令和6年11月21日（木）13時～16時 盛岡会場
令和6年11月29日（金）13時～16時 仙台会場
2. 場 所：いわて県民情報交流センター(アイーナ盛岡)
宮城県建設産業会館
3. 受講者：盛岡会場 15名
仙台会場 34名 計 49名
4. 講習内容
 - 1) 講 話 「ダム管理に関する最近の話題」
 - 2) 講 習 （1）土木技術者としてのダム管理について
（2）ダムの維持管理における点検・検査について
（3）質疑応答



編集後記

会報の発行が遅れたことをお詫びします。昨年6月に研究会事務を引き継ぎ、周りの皆さまのご支援でなんとか会務をこなしてきたところです。不慣れな作業に戸惑い、殊にホームページの修正・更新に苦戦しております。

今年は年末年始の青森での大雪、2月には数年来の寒波が二度来襲するなど、低温や雪に関するニュースが多いような、河川管理やダム管理にどのような影響があるのでしょうか。

会員の皆さまには、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（編集 事務局）